

**IBM InfoSphere Information Server**  
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information  
Server ODBC Connector  
メッセージ・リファレンス**





**IBM InfoSphere Information Server**  
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information  
Server ODBC Connector  
メッセージ・リファレンス**



**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、23 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC19-4342-00  
IBM InfoSphere Information Server  
Version 11 Release 3  
IBM InfoSphere Information Server  
ODBC Connector Message Reference

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2013, 2014.

---

## 目次

ODBC Connector メッセージ . . . . .	1	付録 E. 製品資料へのアクセス . . . . .	19
付録 A. 製品のアクセシビリティ . . . . .	11	付録 F. 製品資料に関するフィードバック の提供 . . . . .	21
付録 B. コマンド・ライン構文の読み方 . . . . .	13	特記事項および商標 . . . . .	23
付録 C. 構文図の見方 . . . . .	15	索引 . . . . .	29
付録 D. IBM の窓口 . . . . .	17		



---

## ODBC Connector メッセージ

このメッセージ・リファレンスには、ODBC Connector によって返されるメッセージが記載されています。

ODBC Connector がインストールされているオペレーティング・システムの機能を熟知している必要があります。このメッセージ・リファレンスに記載されている情報を使用して、エラーや警告を識別し、適切なリカバリー・アクションによって問題を解決することができます。また、この情報により、メッセージが生成され記録される場所を確認できます。

コネクタは、RDBMS エラー、ファイルの読み取り/書き込み、および製品の一般的な使用に関連したメッセージを生成します。

各メッセージに、接頭部 (IIS) とメッセージ番号で構成されるメッセージ ID があります。メッセージは、メッセージ番号に基づいて番号順にリストされています。メッセージ・タイプには、エラー、警告、および通知の 3 種類があります。E で終わるメッセージ ID は、エラー・メッセージです。W で終わるメッセージは警告を示します。I で終わるメッセージは通知メッセージを示します。

メッセージ内に出現する記号 {0} は、コードによって返される変数を示していません。この変数は、生成されるメッセージに固有の値またはプロパティーを表します。

エラーの詳細は、IBM® InfoSphere™ DataStage® and QualityStage™ ディレクター・クライアントのログ・ファイルで確認できます。

---

### IIS-CONN-ODBC-00001E NULL の引数:

*parameter\_name*

**説明:** NULL または空の引数が *parameter\_name* パラメーターに指定されました。

**ユーザーの処置:** *parameter\_name* が、ジョブ・パラメーターを使用するプロパティーを指している場合は、ジョブ・パラメーターに値が入力されるようにしてください。

それ以外の場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、「接続ガイド: ODBC 編」を参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョ

ブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

### IIS-CONN-ODBC-00004E ODBC 関数

¥"ODBC\_function¥" からのレポート:

SQLSTATE = *SQL\_state*: ネイティブ・エラー・コード = *native\_error\_code*: メッセージ = *error\_message*

**説明:** *ODBC\_function* ODBC 関数がエラーを報告しました。SQLSTATE は *SQL\_state* です。データベース・システムによって報告されたエラー (ネイティブ・エラー・コード) は *native\_error\_code* です。返されたメッセージは *error\_message* です。

**ユーザーの処置:** このエラーが予期されていた場合、アクションは不要です。このエラーが予期されていなかった場合は、エラー・メッセージを見直して ODBC 関数

がエラーを報告した理由を特定し、問題を修正し、ジョブを再実行してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00005E サポートされないメタデータ・クラスが指定されました:

*metadata\_class*

**説明:** *metadata\_class* メタデータ・クラスは、ODBC Connector によってサポートされていません。一般にこのエラーは、無効なメタデータ・クラスを指定した場合、または他のコネクタでサポートされるクラスを指定した場合に発生します。

**ユーザーの処置:** メタデータ・クラスのスペルが正しいか確認し、ODBC Connector によってサポートされるメタデータ・クラスにしてください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00006E 内部エラーが発生しました。サポート担当員に連絡してください

**説明:** 予期しない内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、「接続ガイド: ODBC 編」を参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00007W ODBC ドライバーに製品名を通知中にエラーが発生しました

**説明:** 製品認可によって、ドライバーのライセンスなしの使用を防止します。コネクタが ODBC ドライバーの製品認可の検証を試みたときにエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 正しいドライバーが DSN に指定されているか確認してください。IBM ソフトウェア・サポートから最新バージョンのドライバーを取得してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00008E 未処理ケース

**説明:** 予期しない内部エラーが発生しました。コネクタは要求されたアクションを実行できませんでした。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、「接続ガイド: ODBC 編」を参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00009E 既にデータ・ソースに接続されています

**説明:** コネクタが既にデータ・ソースに接続されているときに接続が試行されました。このエラーは、接続を確立する関数が既に呼び出されていたにもかかわらず、呼び出し元が誤って 2 回目の呼び出しを行っていることを示しています。

**ユーザーの処置:** 接続がまだ確立されていないことを確認してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00010E 不明なタイプ・コード

**説明:** *ODBC\_type\_code* ODBC タイプは、既知の ODBC タイプではありません。コネクタは、この列に割り振るメモリーの量がわかりません。

一般にこのエラーは、ご使用のコネクタのバージョンではまだサポートされていないデータベースのバージョンを使用している場合に発生します。

**ユーザーの処置:** ODBC Connector をアップグレードしてください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00011E 存在してはいけない箇所で NULL ポインターが検出されました

**説明:** ODBC Connector が予期しない NULL ポインターを検出しました。内部関数が失敗しました。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログとジョブ・デザインを収



集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、「接続ガイド: ODBC 編」を参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00012E 存在してはいけない箇所で非 NULL ポインターが検出されました

**説明:** 予期しない内部エラーが発生しました。NULL ポインターを予期していたところ、有効なポインターが検出されました。このエラーは、メモリーが壊れている場合にも発生します。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、「接続ガイド: ODBC 編」を参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00013W ODBC 情報: SQLSTATE =**  
**SQL\_state: ネイティブ・エラー・コード**  
**= native\_error\_code: メッセージ =**  
**error\_message**

**説明:** ODBC 関数がエラーを報告しました。SQLSTATE は *SQL\_state* です。データベース・システ

ムによって報告されたエラー (ネイティブ・エラー・コード) は *native\_error\_code* です。返されたメッセージは *error\_message* です。

**ユーザーの処置:** これが予期されていた場合、アクションは不要です。このエラーが予期されていなかった場合は、エラー・メッセージを見直し、問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00015E 不明なステートメント・タイプ

**説明:** switch ステートメントで予期しない値が検出されました。

一般にこのエラーは、.osh ファイルの編集時にプロパティが、サポートされない値に設定された場合に発生します。しかし、このエラーは、メモリーが壊れている場合にも発生することがあります。

**ユーザーの処置:** ジョブ・プロパティがすべて有効な値に設定されているか確認してください。ジョブ・プロパティが正しく設定されている場合は、ジョブをリコンパイルし、再実行してください。それでもエラーが発生する場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、「接続ガイド: ODBC 編」を参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00016E ステートメント *SQL\_code* で実行が失敗しました

**説明:** 指定された SQL ステートメントの実行中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** これが予期されたエラーである場合、すなわち、SQL ステートメントを実行し、その結果を無視するようにユーザーがコネクタを構成している場合、アクションは不要です。これが予期されていなかった場合は、SQL ステートメントにエラーがないかどうか確認してください。SQL ステートメントが正しい場

合、ジョブ・ログ内の後続メッセージを確認して、SQL ステートメントが失敗した理由を特定してください。SQL ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

---

#### IIS-CONN-ODBC-00017E 不明なデータ・タイプ

**説明:** コネクタが不明な ODBC タイプを検出しました。一般にこのエラーは、ご使用のコネクタのバージョンではまだサポートされていないデータベースのバージョンを使用している場合に発生します。

**ユーザーの処置:** ODBC Connector をアップグレードしてください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00018W サポートされないデータ・タイプがあります。列 #column\_number: column\_name、ODBC タイプ・コード: ODBC\_type\_code、ネイティブ・タイプ: native\_type**

**説明:** コネクタが不明なデータ・タイプを検出しました。一般にこのエラーは、ご使用のコネクタのバージョンではまだサポートされていないデータベースのバージョンを使用している場合に発生します。

**ユーザーの処置:** ODBC Connector をアップグレードしてください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00019E このドライバは、バッチ挿入される各行に関する実行状況の取得をサポートしませんが、それはこの処理で配列サイズに 1 より大きい値を設定するための要件です。配列サイズを 1 にリセットしてください**

**説明:** レコードのバッチ処理中にエラーが発生しました。配列サイズが 1 より大きい場合、ODBC ドライバは行レベルでのエラー・レポートをサポートしません。

**ユーザーの処置:** 失敗している行に関する情報を取得するには、「配列サイズ」プロパティを 1 に設定し、ジョブを再実行してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00021E 表 schema\_name.table\_name が見つかりませんでした**

**説明:** schema\_name スキーマ内の table\_name 表が見つかりませんでした。一般にこのエラーは、「表のアクション」プロパティが「追加」に設定されているにもかかわらず、ターゲット表が存在しない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** データベース内にターゲット表が存在

するようにしてください。また、表名およびスキーマ名のスペルが正しいことも確認してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00033E 既存の表のドロップ中にエラーが発生しました。ステートメント = ¥"SQL\_statement¥"**

**説明:** コネクタが、指定されたステートメント *SQL\_statement* を使用して表をドロップしようとしたときにエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 「エラーで失敗」プロパティを「いいえ」に設定している場合、アクションは不要です。

drop ステートメントが予期せず失敗した場合は、データベース・ログを確認して、drop ステートメントが失敗した理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00034E 表の作成中にエラーが発生しました。ステートメント = ¥"SQL\_statement¥"**

**説明:** コネクタが、指定されたステートメント *SQL\_statement* を使用して表を作成しようとしたときにエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 「エラーで失敗」プロパティを「いいえ」に設定している場合、アクションは不要です。

create ステートメントが予期せず失敗した場合は、データベース・ログを確認して、create ステートメントが失敗した理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00035E 表の切り捨て中にエラーが発生しました。ステートメント = ¥"SQL\_statement¥"**

**説明:** コネクタが、指定されたステートメント *SQL\_statement* を使用して表を切り捨てようとしたときにエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 「エラーで失敗」プロパティを「いいえ」に設定している場合、アクションは不要です。

truncate ステートメントが予期せず失敗した場合は、データベース・ログを確認して、truncate ステートメントが失敗した理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00036E ドライバからエラー・メッセージを取得できませんでした (関数 =ODBC\_function)**

**説明:** *ODBC\_function* ODBC 関数の実行中にエラーが発生しましたが、エラー・メッセージが返されませんでした。

一般にこのエラーは、指定された関数の失敗理由を特定

するために ODBC Connector が追加情報を要求し、それに対しデータベースが追加情報を提供できなかった場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 以下のステップを実行します (複数可)。

1. 返されたエラー・コードとメッセージの詳細について、データベース資料を参照する。
2. データベース・ログを確認して、エラーの原因を特定する。

#### IIS-CONN-ODBC-00062E LOB ロケーター照会が行を返しませんでした。照会:

*LOB\_locator\_query*

**説明:** ODBC Connector が *LOB\_locator\_query* LOB ロケーター照会の実行を試みましたが、レコードが返されませんでした。一般にこのエラーは、LOB を含むレコードが変更または削除された場合に発生します。

**ユーザーの処置:** レコードの LOB ロケーター照会が正しいことを確認してください。LOB ロケーター照会が正しい場合は、データベース・クライアントのコマンド・ラインで有効なユーザー名とパスワードを使用して LOB ロケーター照会を実行し、正しいレコードが返されるかどうか確認してください。

#### IIS-CONN-ODBC-00063E LOB ロケーター照会が複数の行を返しました。照会:

*LOB\_locator\_query*

**説明:** *LOB\_locator\_query* LOB ロケーター照会が複数のレコードを返しました。一般にこのエラーは、ソース表が変更されたか、固有性を保証するのに十分なキー列が照会に含まれていない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** エラーを特定するには、以下のステップを実行します。

1. レコードの LOB ロケーター照会が正しいことを確認してください。
2. データベース・クライアントのコマンド・ラインで有効なユーザー名とパスワードを使用して LOB ロケーター照会を実行し、単一レコードが返されるかどうか確認してください。
3. 照会のキー列がユニークかどうか確認してください。
4. 追加のキー列を指定して、照会を訂正してください。キーの一部でありながら、ODBC Connector のプロパティの「列」タブでキー列として指定されていない列が表内にある可能性があるため、このような処置が必要です。

#### IIS-CONN-ODBC-00064E LOB 列の表を判断できませんでした: *LOB\_column\_name*

**説明:** ODBC Connector は *LOB\_column\_name* LOB 列の表名を判断できませんでした。このエラーは、「**使用法**」>「**SQL**」>「**SELECT ステートメント**」プロパティで指定された SELECT ステートメントのエラーが原因で発生した可能性があります。

**ユーザーの処置:** 「**SQL を生成**」プロパティの値を「はい」に設定している場合は、「**表名**」プロパティに表名が正しく入力されているか確認してください。

「**SQL を生成**」プロパティの値を「いいえ」に設定している場合は、「**SELECT ステートメント**」プロパティの SELECT ステートメントを単純にしてください。

#### IIS-CONN-ODBC-00065E LOB 表のキー列を判断できませんでした: *LOB\_source\_table*

**説明:** LOB ロケーターを作成できませんでした。スキーマ内でキー列が指示されなかったか、ユーザー提供 SELECT ステートメント内でキー列が検出されなかったため、ODBC Connector は LOB ロケーターを生成できませんでした。

一般にこのエラーは、コネクタ・ステージの「列」タブにキー列が指定されていない場合に発生します。このエラーは、「**使用法**」>「**SQL**」>「**SELECT ステートメント**」プロパティの SELECT ステートメントにキー列が含まれていない場合に発生することもあります。

**ユーザーの処置:** ODBC Connector の「列」タブに、キー列が少なくとも 1 つ指定されているか確認してください。

「**使用法**」>「**SQL を生成**」プロパティを「いいえ」に設定している場合は、「**使用法**」>「**SQL**」>「**SELECT ステートメント**」プロパティの SELECT ステートメントに、「列」タブで指定されているキー列が含まれていることを確認してください。

#### IIS-CONN-ODBC-00075E LOB の読み取り時は、配列サイズを 1 に設定しなければなりません

**説明:** 「**配列サイズ**」プロパティに 1 より大きい値が設定されています。LOB 列の読み取りまたは書き込みを行う場合、配列サイズは 1 でなければなりません。

**ユーザーの処置:** 「**配列サイズ**」プロパティを 1 に設定してください。

**IIS-CONN-ODBC-00077W** 日付/時間の列は LOB ロケータ照会のキー・フィールドとしてサポートされません。フィールド *column\_name* は LOB ロケータ照会に追加されません。

**説明:** 列 *column\_name* は、日付、時間、またはタイム・スタンプの列です。これらのデータ・タイプは、LOB ロケータ照会のキー列としてサポートされません。この列は LOB ロケータ照会で参照されません。

**ユーザーの処置:** ユニークな単一行を返す LOB ロケータ照会を生成するために使用できる他のキー列が定義されていないか確認してください。

**IIS-CONN-ODBC-00078W** LOB 列は LOB ロケータ照会のキー・フィールドとしてサポートされません。フィールド *column\_name* は LOB ロケータ照会に追加されません。

**説明:** 列 *column\_name* は LOB 列です。LOB 列は LOB ロケータ照会のキー列としてサポートされません。この列は LOB ロケータ照会で参照されません。

**ユーザーの処置:** ユニークな単一行を返す LOB ロケータ照会を生成するために使用できる他のキー列が定義されていないか確認してください。

**IIS-CONN-ODBC-00086E** *MetaStage\_Loc\_Info* 表から情報を取得できません。ステートメント: *SQL\_statement*

**説明:** コネクターが、ステートメント *SQL\_statement* を使用してビューの式を取得しようとしたときにエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** データベース・クライアントのコマンド・ラインで有効なユーザー名とパスワードを使用して SQL ステートメントを実行し、ビューの式が返されるかどうか確認してください。データベース・ログを確認して、SQL ステートメントが失敗した理由を特定してください。

**IIS-CONN-ODBC-00088E** 実行時、CREATE TABLE ステートメントの生成中にエラーが発生しました。無効な列の長さが次の列で検出されました: *column\_name*

**説明:** *column\_name* 列に無効な長さが指定されたため、コネクターは CREATE TABLE ステートメントを生成できません。一般にこのエラーは、列の長さが指定されていない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 「列」タブで、指定された列に有効な長さを入力してください。

**IIS-CONN-ODBC-00089E** 実行時、CREATE TABLE ステートメントの生成中にエラーが発生しました。ODBC ドライバーから次の列のデータ・タイプ情報を取得できませんでした: *column\_name*

**説明:** 列 *column\_name* のネイティブ・データ・タイプを ODBC ドライバーから取得できなかったため、コネクターは CREATE TABLE ステートメントを生成できません。

**ユーザーの処置:** 「列」タブで、指定された列に、ODBC ドライバーおよび基礎のデータ・ソースでサポートされるデータ・タイプを選択してください。

**IIS-CONN-ODBC-00090E** 列 *column\_name* のデータ・タイプはランタイム DDL 生成ではサポートされません。

**説明:** *column\_name* 列のデータ・タイプがサポートされないため、コネクターは CREATE TABLE ステートメントを生成できません。サポートされないデータ・タイプは、Binary、LongVarBinary、VarBinary、および Unknown です。

**ユーザーの処置:** 「列」タブで、指定された列に、ODBC ドライバーおよび基礎のデータ・ソースでサポートされるデータ・タイプを選択してください。

**IIS-CONN-ODBC-00091I** BEFORE SQL コマンドが正常に実行されました

**説明:** この状況メッセージは、BEFORE SQL コマンドが正常に実行された後に表示されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00092I** AFTER SQL コマンドが正常に実行されました

**説明:** この状況メッセージは、AFTER SQL コマンドが正常に実行された後に表示されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00093I** BEFORE SQL (ノード) コマンドが正常に実行されました

**説明:** この状況メッセージは、BEFORE SQL (ノード) コマンドが正常に実行された後に表示されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00094I AFTER SQL (ノード) コマンドが正常に実行されました**

**説明:** この状況メッセージは、**AFTER SQL (ノード)** コマンドが正常に実行された後に表示されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00095I CREATE TABLE ステートメントが正常に実行されました**

**説明:** この状況メッセージは、表が正常に作成されたときに表示されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00096I DROP TABLE ステートメントが正常に実行されました**

**説明:** この状況メッセージは、表が正常にドロップされたときに表示されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00097I TRUNCATE TABLE ステートメントが正常に実行されました**

**説明:** この状況メッセージは、表が正常に切り捨てられたときに表示されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00098E フィールド *column\_name* のデータ・サイズを判断できません。このドライバはデータ・ストリーム処理のためにその情報が必要です**

**説明:** コネクタは、列 *column\_name* にあるレコードのデータのサイズを判断できません。構成されている ODBC ドライバで LOB データをストリーム処理するには、データのサイズが必要です。

**ユーザーの処置:** 指定された列にあるレコードが有効か確認してください。LOB 列からデータを取得するために長さの指定を必要としない ODBC ドライバ、すなわち `SQL_NEED_LONG_DATA_LEN` 属性に「N」を返すドライバを使用してください。

**IIS-CONN-ODBC-00099I ドライバは、引用符で囲んだ ID を SQL ステートメントの中で使用することはサポートしていません**

**説明:** ODBC ドライバは、引用符で囲んだ ID を SQL ステートメントの中で使用することはサポートしていません。

**ユーザーの処置:** 引用符で囲んだ ID を使用する予定

がない場合、アクションは不要です。それ以外の場合は、引用符で囲んだ ID をサポートする ODBC ドライバを使用してください。

**IIS-CONN-ODBC-00104I コネクタは自動コミット・モードで動作しています。プロパティ設定を使用して手動でトランザクションをコミットする代わりに、ドライバによるトランザクションのコミットが実行されます。**

**説明:** ODBC Connector は自動コミット・モードで稼働しています。「セッション」>「自動コミット・モード」プロパティを「オン」に設定すると、プロパティ設定を使用して手動でトランザクションをコミットする代わりに、トランザクションが実行されるたびに、データベースがトランザクションをコミットします。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00105I ドライバ *driver\_filename* 経由で *database\_product\_name*、バージョン *database\_version* に接続されました。**

**説明:** ODBC Connector は、*driver\_filename* ODBC ドライバを使用して、*database\_product\_name* データベース、バージョン *database\_version* に接続されました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00106I 生成されたステートメントは *SQL\_statement* です**

**説明:** ODBC Connector が次の SQL ステートメントを生成しました: *SQL\_statement*。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-ODBC-00107I データベースの制約のため、報告されたレコード処理カウントは正確でない可能性があります**

**説明:** コネクタが配列を使用して INSERT または DELETE ステートメントを実行したときにエラーが発生し、配列内で正常に処理されたレコードの数をデータベースが報告できませんでした。その結果、コネクタが処理したとして報告されたレコードの数が正確でない可能性があります。

**ユーザーの処置:** 正確なレコード処理カウントを受け取ることができるように、「配列サイズ」プロパティを 1 に設定してください。

**IIS-CONN-ODBC-00109W** ビューの式をこのデータベース・タイプからフェッチできませんでした。

**説明:** ODBC Connector は、接続されているデータベースのタイプからはビューの式を取得できません。コネクタは、DB2、Oracle、SQL Server、Sybase、および Teradata のデータベースからのみビューの式の取得をサポートします。

通常、このメッセージは、メタデータのインポート時に「ビューを含める」チェック・ボックスがチェックされている場合にログに記録されます。

**ユーザーの処置:** メタデータをインポートするときは、「ビューを含める」チェック・ボックスをクリアしてください。

**IIS-CONN-ODBC-00110E** 表: *table\_name* の情報を取得できません

**説明:** コネクタは、表 *table\_name* 内の列に関する情報を取得できません。一般にこのエラーは、コネクタ・インポート・ウィザードを使用して選択された表が、表定義のインポート処理が完了する前にドロップされた場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 指定された表が存在することを確認してください。必要な場合は、表を再度作成してください。

**IIS-CONN-ODBC-00144E** 関数 ¥"function\_name¥" が、ファイル ¥"file\_name¥" へのアクセス中に、エラー・コード ¥"error\_code¥" およびエラー・メッセージ ¥"error\_message¥" で失敗しました

**説明:** ODBC Connector がファイル *file\_name* にアクセスできませんでした。 *function\_name* 関数が、 *error\_code* エラー・コードと次のエラー・メッセージを報告しました: *error\_message*。

**ユーザーの処置:** エラー・コードについて詳しくは、オペレーティング・システムの資料を参照してください。エラー・コードおよびエラー・メッセージを確認して、エラーが発生した理由を特定してください。エラーが発生した理由を特定できない場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできません。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、「接続ガイド: ODBC 編」を参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

**IIS-CONN-ODBC-00170E** この処理に対して無効なコンテキストです

**説明:** コネクタはソース・ステージとして構成されなかったため、ODBC Connector がデータの読み取りを試行したときに内部エラーが発生しました。このエラーは、.osh ファイルが壊れている可能性があるか、またはジョブ・デザイン内の ODBC Connector ステージにエラーがあることを示しています。

**ユーザーの処置:** ODBC Connector ステージをキャンバスから削除し、ジョブを再設計してください。

**IIS-CONN-ODBC-00225E** メモリーの割り振りに失敗しました。

**説明:** オペレーティング・システムが、ODBC Connector によって要求されたメモリーを割り振ることができませんでした。

**ユーザーの処置:** システム・リソースを解放するか、使用可能なメモリーを増やしてからジョブを再実行してください。

**IIS-CONN-ODBC-00226I** エラーが発生しましたが、その現行配列の行を特定できません。より具体的なエラー情報を取得するために、「配列サイズ」プロパティを 1 に設定してからジョブを再実行してみてください。

**説明:** エラーが発生しましたが、その現行配列の行を特定できません。より具体的なエラー情報を取得するために、「配列サイズ」プロパティを 1 に設定し、ジョブを再実行してください。

「最初の行エラー発生時に列値をログに記録する」プロパティは「はい」に設定されていますが、発生したエラーは、行特定のエラーではありません。したがって、列値はログに記録されません。

**ユーザーの処置:** 「使用法」>「セッション」>「配列サイズ」プロパティを 1 に設定し、ジョブを再実行してください。ジョブが再度失敗し、エラーが行特定のエラーであれば、列値がログに記録されます。

---

**IIS-CONN-ODBC-00227E** コネクタは、データ・ソース *data\_source* への接続を確立できませんでした。

**説明:** ODBC Connector は、*data\_source* データ・ソースへの接続を確立できませんでした。

**ユーザーの処置:** 指定されたデータ・ソースが正しく構成されていることを確認してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00228E** コネクタは、デフォルト・ユーザーを使用したデータ・ソース *data\_source* への接続を確立できませんでした。

**説明:** ODBC Connector は、デフォルト・ユーザー ID を使用して *data\_source* データ・ソースへの接続を確立できませんでした。一般にこのエラーは、データベースにアクセスするために必要な許可をユーザーが保持していない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 以下のいずれかのアクションを実行してください。

- ODBC データ・ソースにアクセスするために必要な許可をユーザー ID に付与してください。
  - 特定のユーザー ID を使用して、データ・ソースへの接続を試行します。「ユーザー名」プロパティにユーザー名を入力してください。
  - データベース・ログを確認して、エラーの理由を特定してください。
- 

**IIS-CONN-ODBC-00229E** コネクタは、ユーザー *user\_name* を使用したデータ・ソース *data\_source* への接続を確立できませんでした。

**説明:** ODBC Connector は、*user\_name* ユーザーを使用して *data\_source* データ・ソースへの接続を確立できませんでした。一般にこのエラーは、データベースにアクセスするために必要な許可をユーザーが保持していない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 以下のいずれかのアクションを実行してください。

- ODBC データ・ソースにアクセスするために必要な許可をユーザー ID に付与してください。
- 「接続」>「パスワード」プロパティに正しいパスワードが指定されているかどうか確認してください。
- データベース・ログを確認して、エラーが発生した理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00232E** リンクに定義されている列が不十分であるため、SQL ステートメントを生成できません。

**説明:** リンクに列が定義されていないため、ODBC Connector は SQL ステートメントを生成できません。

**ユーザーの処置:** 1 つ以上の列を定義してください。

---

**IIS-CONN-ODBC-00233E** このコネクタは、プロパティ *Property* の検証をサポートしていません。

**説明:** コネクタは、指定されたプロパティを検証しません。

**ユーザーの処置:** コネクタの資料を参照して、指定されたプロパティを検証できるか確認してください。より新しいバージョンのコネクタでは、検証が可能な場合があります。





---

## 付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM® 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere® Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、[http://www.ibm.com/able/product\\_accessibility/index.html](http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html) の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

### アクセシビリティ対応資料

IBM Knowledge Center には、製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。IBM Knowledge Center では、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。IBM Knowledge Center では XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

IBM Knowledge Center にある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

### IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。



---

## 付録 B. コマンド・ライン構文の読み方

この資料では、特殊文字を使用してコマンド・ライン構文を定義しています。

次の特殊文字によってコマンド・ライン構文が定義されます。

- [ ] オプションの引数を識別します。大括弧で囲まれていない引数は必須です。
- ... 前の引数に複数の値を指定できることを示します。
- | 同時には使用できない情報であることを示します。区切り文字の左側の引数か、右側の引数のどちらか一方を使用できます。単一のコマンド使用で、両方の引数を使用することはできません。
- { } 同時には使用できない一連の引数を囲みます。この内の 1 つは必須です。引数がオプションの場合、引数は大括弧 ([ ]) で囲まれます。

注:

- 引数の最大文字数は 256 です。
- 埋め込みのスペースがある引数値は、単一引用符または二重引用符で囲みます。

例:

```
wsetsrc[-S server] [-l label] [-n name] source
```

*source* 引数は、**wsetsrc** コマンドで唯一必須の引数です。他の引数は大括弧で囲まれています。これは、これらの引数がオプションであることを示します。

```
wlsac [-l | -f format] [key... ] profile
```

この例で、**-l** および **-f format** 引数は、同時には使用できないもので、オプションでもあります。*profile* 引数は必須です。*key* 引数はオプションです。*key* 引数のあとの省略符号 (...) は、複数の *key* 名を指定できることを示します。

```
wrb -import {rule_pack | rule_set}...
```

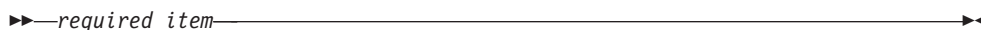
この例で、*rule\_pack* および *rule\_set* 引数は同時には使用できませんが、どちらか 1 つの引数は指定する必要があります。また、省略符号 (...) は、複数の *rule\_pack* または *rule\_set* を指定できることを示します。



## 付録 C. 構文図の見方

本書で使用される構文図には、以下の規則が適用されます。

- 構文図は、左から右、上から下に、線に沿って読みます。以下の規則が使用されます。
  - >>--- 記号は、構文図の始まりを示します。
  - ---> 記号は、構文図が次の行に続くことを示します。
  - >--- 記号は、構文図が前の行から続いていることを示します。
  - --->< 記号は、構文図の終わりを示します。
- 必須項目は、水平線 (メインパス) 上にあります。



- オプション項目はメインパスの下に表示されます。

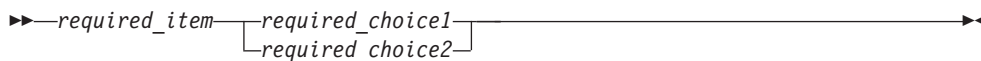


オプション項目がメインパスの上に表示される場合、その項目は構文要素の実行に影響せず、単に読みやすくするために使用されます。

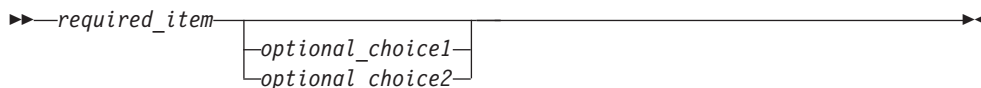


- 複数の項目から選択できる場合は、それらの項目を縦に並べて (スタック) 示しています。

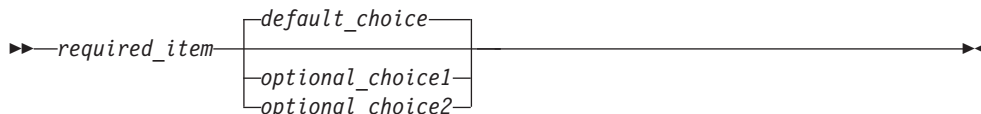
項目の 1 つを選択する必要がある場合は、スタックの 1 つの項目がメインパス上に示されています。



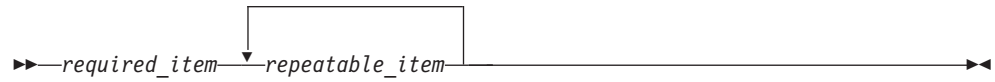
項目から 1 つをオプションで選択できる場合、スタック全体がメインパスよりも下に示されます。



項目の 1 つがデフォルトである場合は、その項目はメインパスの上に表示され、残りの選択項目は下に示されます。



- メインラインの上に、左へ戻る矢印がある場合には、項目を繰り返して指定できることを示しています。



繰り返しの矢印にコンマが含まれている場合は、繰り返し項目をコンマで区切らなければなりません。

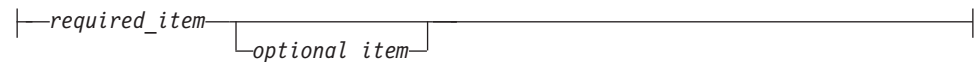


スタックの上の反復矢印は、スタック内の項目を反復できることを示します。

- 構文図が、複数のフラグメントに分かれている場合があります。構文フラグメントはメインの構文図とは別に示されますが、フラグメントの内容は、図のメインパス上にあるものとして読む必要があります。



**fragment-name:**



- キーワードは大文字で表示され、最小の省略形が存在する場合にはそれも大文字で表示されます。示されているとおりに入力する必要があります。
- 変数は、すべて小文字のイタリック体 (例えば、*column-name*) で表示されます。これらは、ユーザーが指定する名前または値を表します。
- 図の中に句読点がない場合は、キーワードおよびパラメーターを 1 つ以上のスペースで区切ります。
- 句読記号、括弧、算術演算子、およびその他の記号は、図に示されているとおりに入力してください。
- 脚注は、(1) のように、括弧の中に数字を入れた形で示されます。

## 付録 D. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表1. IBM リソース

リソース	説明と場所
IBM サポート・ポータル	サポート情報は、 <a href="http://www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server">www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server</a> で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。
ソフトウェア・サービス	ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト <a href="http://www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja">www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja</a> にアクセスしてください。
My IBM	<a href="http://www.ibm.com/account/jp/ja/">www.ibm.com/account/jp/ja/</a> の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。
研修と認定	個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 <a href="http://www.ibm.com/training">http://www.ibm.com/training</a> にアクセスしてください。
IBM 担当員	ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 <a href="http://www.ibm.com/connect/ibm/us/en/">www.ibm.com/connect/ibm/us/en/</a> にアクセスしてください。





---

## 付録 E. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

### IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

**注:** F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

[http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ\\_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html)

#### ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc/⇒  
common/accessingiidoc.html
```

## ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

### Windows

```
IS_install_path¥ASBServer¥bin¥iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

### AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター `server1.example.com` 上の URL 値は、`http://server1.example.com:8888/help/topic/` になります。

## PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 <https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1> からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには <http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> の IBM Publications Center にアクセスしてください。

---

## 付録 F. 製品資料に関するフィードバックの提供

IBM の資料に関する貴重なフィードバックをご提供ください。

お客様からのご意見やご感想は、IBM が質の高い情報を提供するための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただく場合は、次のいずれかの方法を使用することができます。

- IBM の Web サイトでホストしている IBM Knowledge Center 内のトピックについてコメントをお寄せいただくには、サインインし、トピックの下の「**コメントの追加**」ボタンをクリックしてコメントを追加してください。このようにして送信されたコメントは、一般に公開されます。
- IBM Knowledge Center 内のトピックに関するコメントを IBM に送信し、他の人からは閲覧できないようにするには、サインインし、IBM Knowledge Center の下の「**フィードバック**」リンクをクリックしてください。
- オンライン・リーダー用のコメント・フォーム ([www.ibm.com/software/awdtools/rcf/](http://www.ibm.com/software/awdtools/rcf/)) を使用して、コメントを送信します。
- コメントを E メールで [comments@us.ibm.com](mailto:comments@us.ibm.com) に送付します。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定のテキストについてご意見がある場合は、そのテキストの位置 (例えば、タイトル、表番号、ページ番号など) を記載してください。



---

## 特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

### 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J46A/G4  
555 Bailey Avenue  
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用する場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Metadata Asset Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>拡張されたユーザーのユーザビリティ</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage®	Big Data File ステージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名</li> <li>デジタル署名</li> <li>セッション ID</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage	XML ステージ	セッション	内部 ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage	IBM InfoSphere DataStage and QualityStage® Operations Console	セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Data Click	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Data Quality Console		セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Information Governance Catalog		<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名</li> <li>内部 ID</li> <li>ツリーの状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Information Analyzer	InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ	セッション	セッション ID	セッション管理	無効にできない

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ



ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java<sup>™</sup> およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



---

## 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [ア行]

お客様サポート  
連絡先 17

### [カ行]

構文  
    コマンド・ライン 13  
コマンド  
    構文 13  
コマンド・ライン構文  
    規則 13

### [サ行]

サポート  
    お客様 17  
商標  
    リスト 23  
製品資料  
    アクセス 19  
製品のアクセシビリティ  
    アクセシビリティ 11  
ソフトウェア・サービス  
    連絡先 17

### [タ行]

特殊文字  
    コマンド・ライン構文での 13  
特記事項 23

### [マ行]

メッセージ・リファレンス  
    ODBC Connector 1

## W

Web サイト  
    IBM 以外 15







Printed in Japan

SC43-1006-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21